

2007 年 3 月 23 日

(財)日本サッカー協会フットサル委員会委員長 様
〃 審判委員会委員 各位
地域サッカー協会/都道府県サッカー協会審判委員長 各位
日本フットサル連盟 会長 様

(財)日本サッカー協会審判委員会
委員長 松 崎 康 弘

フットサル審判員の用いるシグナルについて

国際サッカー連盟(FIFA)から審判員の用いるシグナルが新たに示されたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 新たなシグナル(別紙参照)

間接フリーキックに値する反則に適用するアドバンテージのシグナル

ファウル累積の対象となるのは直接フリーキックに値する反則のみである。間接フリーキックに値する反則に対してアドバンテージを適用しても、ボールがアウトオブプレーになった後に反則は累積さないことをアドバンテージ適用時に明確なシグナルで伝える必要があることから、新たに間接フリーキックに値する反則に適用するアドバンテージのシグナルが導入された。

- ・ 直接フリーキックの反則に対するアドバンテージのシグナルはこれまでと同じ
- ・ 間接フリーキックの反則に対するアドバンテージのシグナルは片手を前方に押し出す
担当審判員は“プレーオン”、“アドバンテージ”と発声する共にこれらのシグナルを明確に示して、競技者、チーム役員、他の審判員、観客等にどのような反則に対してアドバンテージが適用されたことをはっきり知らせる必要がある。

アドバンテージ適用後の累積ファウルのシグナル

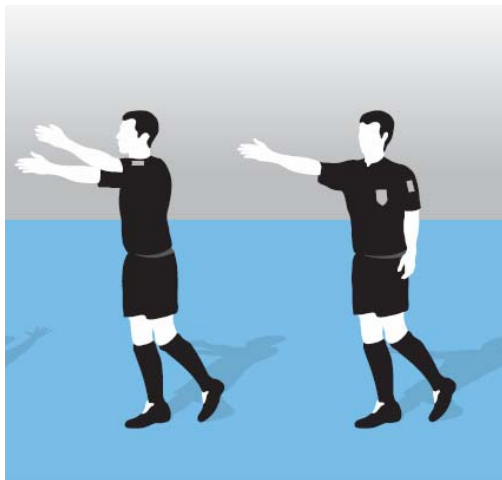
直接フリーキックに値する反則にアドバンテージを適用した場合、その後ボールがアウトオブプレーになったときに速やかにオフィシャル席の4～5m前に近寄り、タイムキーパーと第3審判員に対して次のシグナルを示す。

- ・ 審判の胸の前で数回腕を回し、直接フリーキックに値する反則にアドバンテージ適用したことを示す
- ・ 一方の手でファウルが累積されるチームのベンチ側を指し、他方の手で累積されるファウル数を示す(2度アドバンテージを適用したならば“2”)

2. 適用 2007年4月1日

<参考> これらのシグナルは、2007年3月発行の「フットサルの競技規則及び実践的審判法 Ver.2.0」の中でも紹介されている。

間接フリーキックに値する反則に適用するアドバンテージのシグナル（右側）

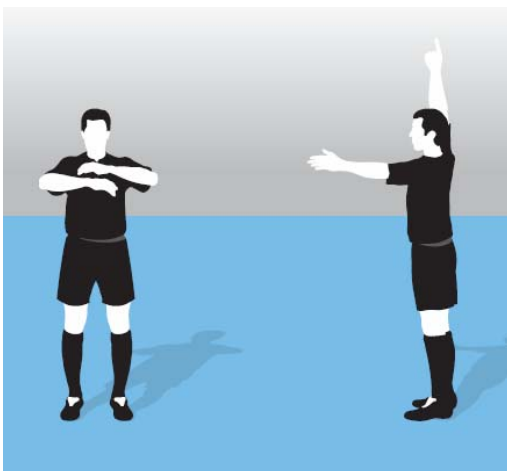


アドバンテージ
(直接フリーキック)

アドバンテージ
(間接フリーキック)

* 間接フリーキックに値する反則にアドバンテージを適用する場合、片手を前方に押し出す。

アドバンテージ適用後の累積ファウルのシグナル



アドバンテージ適用後のファウルの累積

- * アドバンテージを適用した審判は、ボールがアウトオブプレーになったときに速やかにオフィシャル席の4～5 m前に近寄る。
- * タイムキーパーと第3審判に対して：
 - ・ 審判の胸の前で数回腕を回し、直接フリーキックに値する反則にアドバンテージ適用したことを示す
 - ・ 一方の手でファウルが累積されるチームのベンチ側を指し、他方の手で累積されるファウル数を示す（2度アドバンテージを適用したならば“2”）

